

わたしたちは今、1924年の伝道開始以来今日まで、創立者高倉徳太郎牧師をはじめとする多くの牧師、長老、会員の奉仕によりこの国における伝道と教会形成にあずかってきた歴史を振り返り、賜った恵みを感謝すると共に、宣教への新たな召しをおそれつつ確信する。

さらに前進していくために、何よりもまずわたしたちは過去において犯した多くの誤りと罪を告白し、イエス・キリストへの信仰により憐れみの神に赦しを乞い願わなければならない。なかでも日中戦争・太平洋戦争の間、イエス・キリストに対しつねに信実に歩もうと願いながらも、まことの神を神とし、この神以外のものを神としない告白において重い過ちを犯したこと、また世に対し預言者の使命に生きえず国民と共に過ちに陥り、とくにアジアの人々に対して罪を犯したことを認め、心から悔い改める。

わたしたちは悔い改めにふさわしい実を結ぶべく、今日まで、唯一のまことの神と、世界と教会の主イエス・キリストへの信仰を告白しつつ歩んできた。今わたしたちはこの「告白する教会」の志を受け継ぎ、信実の教会を形成し、神の憐れみと慈しみを世に宣べ伝え、その栄光を現わし、将来に向けて宣教の歩みを力強く刻んでいきたいと願う。そのためわたしたちは以下の志を明らかにし、主の御霊の導きと力を切に乞い求める。

1、立場

わたしたちは聖書に証しされ、宗教改革及びその流れの中にある諸信仰告白において明らかにされたイエス・キリストの福音の基礎に立ち、この福音とその信仰を正しく受け継ぎ、世のための教会として神の国の宣教に仕えることを志す。

2、宣教

イエス・キリストは「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」（マルコ一六・一五）と命じられた。福音、すなわち神の国の福音とは、イエス・キリストへの信仰により、神の恵みの豊かさに満たされ、命の御霊に生かされることである。神の国はイエス・キリストにより、その十字架と復活による罪のあがないによって確立された。イエス・キリストはこの世のすべてのものの上におられ、恵みをもって支配しておられる。

教会は神の国の福音を宣べ伝える聖なる委託を与えられた。わたしたちは福音の宣教を通して世に仕えるため伝道と牧会につとめ、協力一致してその使命を果たすことを志す。とくに次代を担う世代への伝道、教会学校の発展のために全力で取り組む。宣教の務めを担い喜んで奉仕するためには、わたしたち自身が福音に豊かに確かに養われ訓練されなければならない。

3、礼拝共同体

わたしたちは主の日の公の礼拝を重んじる。礼拝の中心は説教と聖礼典にある。わたしたちはくり返しこれにあずかり、御言葉と御霊を通してイエス・キリストに結ばれ共に生かされる信仰の共同体であることを願い求める。

この共同体の頭はイエス・キリストであり、教会はイエス・キリストの体、イエス・キリストを中心とする聖徒の交わりである。キリストの体の肢体である会員は祈りを大切に、愛において互いに仕え、慰め、執り成し合う。

御言葉によって自由にされたわたしたちは御霊に導かれ、礼拝から押し出されて遣わされていく全生活においてイエス・キリストを主と告白し、すべての造られたものへの感謝の奉仕を志す。

4、世のための教会

わたしたちは、世を極みまで愛し十字架にご自身を捧げられたイエス・キリストに従い、世のための教会として宣教の務めを果たすように努める。復活により罪と死の力に打ち勝ち、世に勝利したキリストへの信仰に生かされながら、隣人をおぼえ、苦しむ者と共に苦しみ、強くない者の弱さをにない、世の平和（シャローム）のために働き、地の塩・世の光として神の国の証人たることを志す。

わたしたちはこの時代とこの世界の苦しみを共に担っていくものでありたい。例えば地球と、その中の、人間をはじめとするすべての被造物の命の危機に対しても、創造主への信仰に立って調和ある共生を目指すことが求められている。またわたしたちは、わたしたちの国がそこでは男も女も、老人も壮年も若者も子供も、またこの地に住む外国人も一人ひとりが大切にされる正義と公平と自由が尊ばれる平和な社会として形成されるように祈り働く。信教の自由は堅持されなければならない。

5、教会政治

神の家としての教会を治める方はただひとりイエス・キリストである。このキリストの主権を現すためにわたしたちは政治形態として会議制をとり、同時にわたしたちの伝統として長老制度を重んじ、それによって教会を建てることを志す。

会員一人ひとりの賜物と奉仕が豊かに用いられ、長老制度の特質が合同教会としての日本基督教団にあっても生かされるようわたしたちは努力を続ける。教会は御言葉によってつねに改革されつづけなければならない。

6、公同教会

「主はひとり、信仰は一つ」（エフェソ四・五）
わたしたちは世界と日本の諸教会との連帯と一致を重んじる。わたしたちの教会はその一つの技である。

合同教会としての日本基督教団が、その信仰告白に基づく聖なる公同教会として、歴史の中でよくその責務を果たし、かつ真実に形成されるよう祈りつつ、宣教のために苦闘する諸教会と共に教団または教区・支区の諸課題を担うことを志す。

7、献身

教会・教会堂をめぐる地域環境は時代と共に大きく変化した。しかしわたしたちは先人から受け継いだこの地において教会の形成に取り組み、変化に対応し将来に備え、宣教の責任を負う。

御言葉をよく学び、御霊に導かれて祈り、信仰と希望をつねに新たに、「御国を来らせたまえ」と祈りつつ、この身を主に献げる。

（1998年2月22日、教会総会で採択された。）